

### ボランティアの大切さ

山口 万綾 (まあや)

森の里 小学六年

私は三年生からボランティアをやっています。最初は祖父の付きそいでやっていましたが、4年生からは積極的にやるようになりました。五、六年生からは一人でやるようになりました。

最初は何の意識もせず、一緒に遊んだり、掃除をしたり、お店(バー)を出したりしていました。

そのいろんな事をしている間にボランティアの大切さがわかりました。私は体に障害をもつ人と、脳に障害をもつ人とふれあっています。最初はなかなか、はじめませんでしたが、「一緒にふれあってくれませんか」そんな心配を感じていたからです。しかし、好きでそうなたわけではない。そう理解していくと、自然に協力しようと思えました。でも、なんでも協力してもらう人たちではありませんでした。トモダチと頑張ったりして努力もしていました。どんなに失敗しても諦めずに一人でも、ちゃんと頑張つてやりとげる事もたくさんあります。

私は、「自分でやりとげることはとても大切なんだ」と分かり勉強になりました。

今は子供の人がボランティアをやってくれる人数は少ないけど、きつと協力できるとおもいます。ボランティアは人のために、自分のためにもなるので大事なことから、みんなにやってほしいです。

大変なことでもたくさんあるけど、人に本当に喜んでもらうのは、気分がよくていい気持ちになります。だから、人のためになにかをすることは嬉しいことだと考えてほしいです。早くボランティアをしてくれる人が増えるといいと思います。

## 介護保険と住宅改修

福祉住環境コーディネーター 豊田 つかさ

### 間違いだらけのバリアフリー その5・心のバリアフリー

地の有力者が駐車してましたので注意したことがあります。ところが、「車道に止めるよりもこの方が迷惑にならない」との返答が帰ってききました。唾然としたのは私だけでしょうか。

先日、ふれあいプラザがオープンしました。外観、内装共にとても綺麗にできています。しかしよく観察してみると、ロビーのイスはとても軽量でしかも床は硬くツルツルです。トイレの場所が分かりません。ようやく辿りつけても中は迷路です。スロープの始まりと終わりが分かりません。車椅子は階段下のゴミ箱の隣にあります。もう少し、「思いやり」の心があつたらこのようなレイアウトにならなかつたはず。見学中に車椅子の使用者に会えましたのでお話をしてみました。「介助者がいなければ段差を乗り越えられませんが、車椅子専用駐車場は芝に足をとられ危険、国際シンボルマークが小さいうえに黒くて見えません」との感想でした。そこで、試に実測したところ規格外の寸法でした。しかも、屋根がありません。「バリアフリー法」バリアフリー「交通法」その他、障害者だけでなく健康者にも有効な法律や条令が施工されています。それを実施する際には指導者や現場に携わる方がもっと「思いやり」の心を持つて設計・施工して欲しいものです。

私たちの住む街には様々なバリア(障壁)があります。バリアフリーの考えが及ばなかつた時代はともかく、経済的に豊になつた現在においてもバリアは地域社会の中にさまざまな形で存在しています。このバリアを取り除くためにはなんと心も「思いやり」の心が無ければなりません。私の住む団地の公会堂前の歩道上に団

れを實施する際には指導者や現場に携わる方がもっと「思いやり」の心を持つて設計・施工して欲しいものです。私は、健康者や様々な障害を持つ人々、子供たち、老齢の方々が混在しているのがスマートな地域社会(生活空間)と考えます。この地域社会を維持するために「思いやり」の心でバリアを一つずつ摘み取つていくことが重要だと思います。写真の例は、通行者の安全のために取り付けたポールです。車椅子や自転車で通行するには危険です。つくば市森の里9の12



Tel = 876の5105

注、上記「ボランティアの大切さ」を発表された山口万綾さんは祖父の立川浩一さんが普段私たち身障協のボランティア活動をされており、「海の集い」や「県スポーツ大会」等と一緒に応援頂いておりますのでご紹介しました。